

ANIMAL CENTER NEWS

No . 5

目次

◆実験計画書の継続状況と

センター登録者の継続利用の確認について

◆Helicobacter hepaticus 感染報告

◆in vivo イメージングシステムの現状と注意点について

◆モニター動物の微生物モニタリングを行いました



(写真1) メジロ

◆実験計画書の継続状況とセンター登録者の継続利用の確認について

新年度に入りましたら、実験計画書の継続状況及びセンター登録者の継続利用の有無を各講座に確認させていただきます。

実験計画書については、変更がある場合は、動物実験変更届を、実験を終了されているものは中止・終了報告書をご提出ください。

また申請から5年以上経過している計画書（変更申請されていない）及び、実験責任者が変更になる場合も実験計画書の新規作成をお願いします。

◆Helicobacter hepaticus 感染報告

【感染発覚の経緯と対応】

先日の利用者会でお伝えしたように、昨年 11 月に飼育室モニター動物の定期微生物検査で *Helicobacter hepaticus* の感染が 2 つの飼育室で認められました。検査結果確定後、感染マウスはすみやかに感染室に隔離し、現在は汚染飼育室の消毒及び感染マウスの SPF 化を順次進めています。飼育室は 3 月末に復旧できる見通しです。

この度は利用者の皆さまにご協力いただいたおかげで、迅速に対応ができました。誠にありがとうございました。

【今後の感染対策】

今回の感染経路としては外部機関からの搬入個体が検疫検査を陰性で潜り抜けた可能性が高いと考えています。そこで、感染を未然に防ぐためにも**繁殖会社以外からの動物は原則として生殖工学技術を用いて SPF 化したのちに搬入、もしくは凍結胚・凍結精子を輸送**していただくようお願い致します。

例外として、下記の場合に限っては個体で搬入していただいても構いません。

- ・外部での実験を継続して同一個体で行う場合
- ・多系統を同時に搬入する場合
- ・繁殖成績が悪い場合

検疫検査の潜り抜けを未然に防ぐためにも、**搬入動物の検疫時にはできるだけ同腹の産仔を検査個体として提供**してください。

困難な場合は、囀動物を検査個体としますが、搬入個体の新鮮便も検体として提出しますので、ご了承ください。

【センター入館規則】

日頃からご理解いただいていることと存じますが、改めてセンター入館時のルールを確認していただき、感染防御にご協力ください。よろしくお願い致します。

- ・センター外の動物に触れた後の入館はご遠慮ください
- ・パスボックスに入らない機器を無断で持ち込まないでください
- ・動線は遵守してください
- ・センター職員への断りなく、動物の飼育室間の移動、講座間の移動をしないでください
- ・センター外へ搬出した動物やケージの再搬入は禁止です

◆in vivo イメージングシステムの現状と注意点について

平成 30 年 2 月 10 日（土）より、動物実験センター247-D 室に設置してある発光マクロイメージングシステム（AEQUORIA-2D/8600）に不具合がありました。現在は問題なくご使用いただけます。不具合の原因は、顕微鏡とモニター等を接続する配線の断線で、非常に特殊で繊細なものとなっています。さらに、現在は製造されておらず、交換もできません。ご利用の際にはくれぐれもご注意下さいますよう、お願いいたします。



(写真 2) 発光マクロイメージングシステム (AEQUORIA-2D/8600)

◆モニター動物の微生物モニタリングを行いました

各飼育室のモニターマウスを用いて、定期的（3 ヶ月おき）に実施している微生物モニタリングを平成 30 年 2 月 20 日（火）に実施しました。下記の項目に関して、MONILISA Kit（わかもと製薬株式会社）および PCR 法による自家検査を行い、検査結果はすべて陰性でした。

検査項目：HVJ, MHV, Myco, Tyzzer, Helicobacter hepaticus

検査結果：<https://www.adres.ehime-u.ac.jp/bumon/180220.pdf>